

日銀事務所の
あさひかわ経済
あれこれ No.22

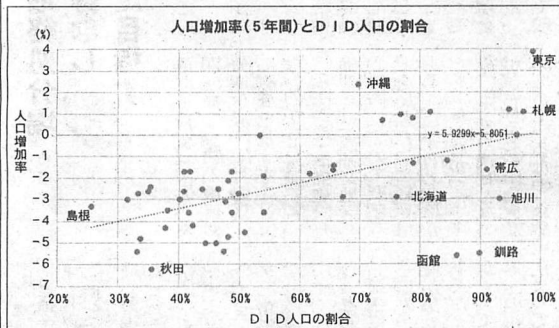
人口増加率と婚姻率から見た
人口集積の効果

昨年11月末に2020年国勢調査の結果が公表されました。国勢調査は5年ごとに行われる人口、世帯、産業構造等の実態に関するわが国の最も基本的な統計調査で、2020年に実施100年を迎えました。今回はこれを使って人口の集積が人口動態に及ぼす影響について見てみたいと思います。国勢調査では、都市的

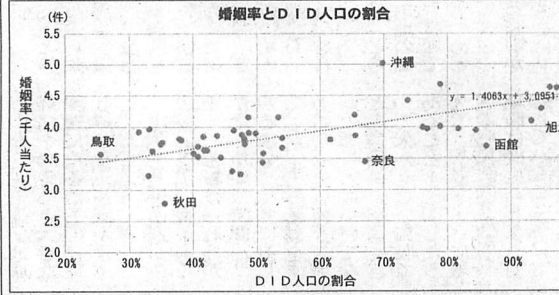
地域の特徴を明らかにする統計上の地域の単位として「人口集中地区」(英語のDensely Inhabited Districtを略してDIDとも言いいます)を設定し、調査結果を集計しています。DIDは全国を約106万に分けた調査区ごとの人口密度を計算し、①1平方キロ当たり4000人以上の調査区が隣り合せて存在し、かつ、②その調査区合計で人口が5000人以上になることが指定の条件とされています。人口密度が際立って高い人口密度を横軸として、DID人口の割合を縦軸として散布図を作ると、

そもそも北海道は総人口に占めるDID人口の割合が高い地域です。都道府県別の人口密度は最も低い66.6人/平方キロ(全国平均33.8人/平方キロ)のDID人口の割合は全国で9番目(76.0%)です。北海道の人々は、大な土地に点在しているのではなく、人口集中地区にまとまって住んでいるのです。

国勢調査による5年間の人口増加率を縦軸に、総人口に占めるDID人口の割合を横軸として散布図を作ると、



(注)人口増加率は2015年から2020年までの5年間の増加率。(出所)総務省「国勢調査」



(出所)総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態統計」

DID人口の割合が高い地域ほど人口増加率が低い、もしくは人口減少率が低い傾向が見られます。ここでは、参考として北海道の主要都市も載せてみました。都道府県と都市とは比較対象としてやや無理はありますが、少なくともこれら都市同士の間では、同様の傾向のあることが確認できます。

さらに、婚姻率(1000人当たり)とDID人口の割合の関係を見ても、近似線の傾きは緩やかですが、DID人口の割合が高い地域ほど婚姻率が高い傾向がうかがえます。北海道の主要都市の間でもほぼ同様の傾向です。これらから言えるのは、人口の集積には、婚姻率を高め、人口減少を防ぐ効果があるということです。サービス業は、

女性の雇用比率が高い会の創出等を通じて女性の必要性が叫ばれてきました。人口が減少するにつれて、人口集積は、行政の効率化やコスト削減だけでなく、人口減少対策として期待されるものです。北海道では、人口集積が比較的進んでいますが、都市圏を持続可能なものとしていくために、街の将来像や先行きの人口動態予測を見据えつつ、さらなる人口集積に取り組む必要があるように思われます。

従来、地方では、持続可能なまちづくりといった観点から、住民の居住地を集中させる人口集積いわゆる「大賀健司おおがけんじ」一九六五年神奈川県生まれ、青山学院大学法学部卒業。業務局企画課、青森支店次長、政策委員会企画課、静岡支店次長を経て、二〇二〇年旭川事務所長に就任。



【大賀健司おおがけんじ】一九六五年神奈川県生まれ、青山学院大学法学部卒業。業務局企画課、青森支店次長、政策委員会企画課、静岡支店次長を経て、二〇二〇年旭川事務所長に就任。